

協 同

小山展弘後援会報
平成30年
1月1日号

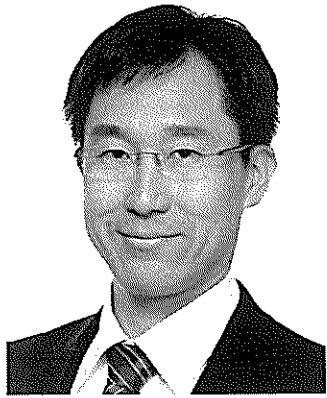
<編集・発行>
小山展弘後援会
〒438-0078
磐田市中央 656-1
TEL: 0538-39-1234
FAX: 0538-39-1235

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

～ 協同・連帯 共生・安心～

前衆議院議員

小山のぶひろ



氏に訊く

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。お正月をいかがお過ごしですか？

私は、今年は、バラバラになった野党が一つにまとまり、緊張感のある国会が取り戻される年であってほしいと思っています。

衆院選前に希望の党が行った政治的行為は、「排除の論理」だけでなく「抹殺の論理」も含んでいました。野田さんや山尾さんを希望の党に入党させませんでした。彼らには刺客を立てず、「排除」しただけでした。しかし、立憲民主党や特定の候補者には刺客を立てました。まさにリベラルの民意を国会に反映させないという意思で、これは「抹殺の論理」だったのです。しかし、昨年の衆院選の選挙結果から明らかなのは、リベラルの民意が少なくとも国民の2割～3割近くあること、このリベラルの民意を否定したり、抹殺したりすることはできないということ、す。リベラルの民意を否定するならば、野党勢力は2～3分裂し、野党同士が競合・抗争することになってしまい、与党を利するだけになってしまいます。それは、新聞等の世論調査による与野党の拮抗が望ましいとする、国民全体の民意とも離れた結果になってしまいます。

私は、穏健な保守からリベラル勢力までを包み込む、寛容性と包容力のある、そして自民党とは異なる野党勢力の結集を行っていきたく個人的には思っています。リベラルの皆様の考えや理想と、現状や政権運営の現実のバランスを取る、「現世を忘れぬ久遠の理想」を掲げる勢力、リベラルの民意を反映しつつも、現実的な対応も考慮した、政権を担うことを少なくとも想定した政策立案を行えることができる勢力であり、これを呼び掛けられるのは、いやしくも政権を担った経験のある民進党以外にないと思っています。万年野党も、第二自民党や自民党の補完勢力も、求められていないと思えます。そして、このような野党に不満な「保守」というより「対米追従・対米従属」の方々こそ、自民党に行かれたらよろしいと思うのです。野党結集には必ず、立憲民主党にも合流していただくべきです。私は、民進党こそが野党結集のさきがけ、政界再編のさきがけとなるべきであり、これまでの綱領を見直し、「ALL FOR ALL」、「国民の生活が第一」といった理念をもとに、新たな野党結集の旗を掲げる時であると思えます。立憲民主党から希望の党の中で我々の理念にご賛同いただける方々までの野党結集を図るべきです。「もう終わった政党的落選者がなにを言うか」とそっぽを向かれるという人もいます。しかし、そうかもしれない。筋を通す勇氣、政治をあきらめない不屈の信念を、民進党こそ持つべきです。

また、希望の党から刺客を立てられた私が、わだかまりやしこりをもたず、へらへら笑って明日から握手はできないが、テーブルについて野党結集を図るべきと発信することは意味がないことだとは思いません。

いかなる形の野党再編であれ、我々の理念と野党結集の旗を高く掲げ、存在意義を示していくべきであると考えます。

前衆議院議員 小山展弘